

# 富士第一地区 生涯学習推進会

人口：12,633人 世帯数：5,765世帯（平成31年1月1日現在）

スローガン

安全で楽しいまちづくりに参加しよう  
富士第一地区からの情報発信に参画しよう



会長 海野 光由

沿革

富士第一地区生涯学習推進会は、昭和43年4月1日に「社会教育推進会」として設立されました。平成2年7月に施行された「生涯学習振興法」を受け、平成6年4月に規約を改正して「生涯学習推進会」に名称変更しました。本会が使用している標章は公募・選定を行い、平成10年度から使用しています。平成14年4月には、富士北公民館（当時）の完成を待って富士北地区が本会より分離・独立し、現在に至っています。本年4月に設立50周年を迎え、富士駅北MCを拠点に新たな一歩を踏み出しています。

## 富士第一地区のみどころ

富士第一地区は、JR東海道線の北側、東は潤井川、西はJR身延線袖木駅付近までの旧東海道、旧国一沿いの一帯に位置しています。JR富士駅周辺や青葉通りは商業地域となっているほか、ロゼシアター、複合的機能をもつ富士市交流プラザやフィナンセには、地区外から日常的に多くの人々が入り出す富士市の中心市街地ともいえる地区です。

この地は「賀嶋」と称し、岩本山実相寺から元吉原の今井までの潤井川西岸の地を領した平安時代後期からの荘園「加嶋荘」のあった所と言われています。50年以上の歳月を費やした古郡親子三代による治水事業の成功により、「加島五千石」と称されるようになりました。

当地区の入口、潤井川に架かる「三度橋」から旧東海道を上ってみましょう。橋を渡ると道祖神「袂の寒神」が迎えてくれます。その先には雲を突くような松の大木があったという「塔の松」跡地があり、塔の木の地名の由来といわれています。昔、間の宿本市場付近から見る雪の富士は、中腹に鶴が舞うようであったということから「鶴の茶屋」と呼ばれた茶屋脇には「鶴芝の碑」があります。この碑は、京都の画家蘆州が鶴を描き、江戸の学者亀田鵬斎が詩文を添えて碑としたもので、旧東海道を偲ぶ貴重な文化財といえます。ちょっと歩いて旧国一を渡ると「本市場の一里塚」があり、富士第一小学校とは目と鼻の先になります。さらに西に向かえば、高札場跡と言われている「札の辻」に行き当たります。

旧東海道沿いに当地区のみどころを紹介しましたが、一度歩いてみてはいかがでしょうか。



## 生涯学習の活動

【富士第一地区生涯学習推進会の特色】

本会の各専門部の部員は、各区から推薦された推進員で構成されますが、各区からの推進員は一年か二年で交代してしまい、役員の手不足が懸念されていました。このため平成15年に規約の一部を改正し、会長も推進員を推薦することができることとして、役員不足を何とか乗り越えようと努力しています。また、同年の規約改正で専門部の名称を成人教育部から成人学習部に、安全教育部を生活安全部に変更するとともに、総務運営委員会（現在の名称は総務部）を創設しました。

総務部は、各専門部間の連絡を密にするため各専門部の部会に出席し、各専門部にも総務担当者（部長若しくは副部長）を置き、総務部会には各専門部の総務担当者が参加して意思の疎通を図っています。

【まちづくり協議会との関わり】

富士駅北地区まちづくり協議会が主催する「かじま祭り」は、当時の「富士駅北地区まちづくり推進会議」からの協力要請により、実行委員会を組成して、平成7年度から現在に至るまで本会が主催する文化祭と同日に開催しています。

当地区のまちづくり協議会には、9部門の委員会がありますが、その内5部門の責任者は本会の副会長5名が担っています。先人の皆様が築いてきた伝統を承継し、富士駅北地区まちづくり協議会の構成団体の一員として、当地区にお住いの方々の連帯感と自治意識の高揚を図るとともに、ふれあいのある心豊かな「まちづくり」を推進していきます。

## 青少年育成部

青少年育成部は、地区内の26町内から推薦された推進員を基本に構成され、互選により部長、副部長を選出して活動しています。部会は、原則的には隔月開催ですが、イベント等の準備が必要な場合は随時集まっています。

年間の主な活動は、①子ども会球技大会協力②県下一斉街頭補導（夏季・冬季）③地区体育祭協力④かじま祭りへの参加・協力⑤青少年健全育成イベント「作って遊ぼう!」となります。

一昨年までは青少年育成部主催でドッジボール大会を開催していましたが、少子高齢化の影響もあり年々参加チームが減少してきましたので、昨年「作って遊ぼう!」というイベントを開催しています。これは、児童が個人参加でスライム・紙飛行機・竹鉄砲を作って遊ぶというものです。参加は個人ですが、一緒に遊ぶことによる連帯感が醸成できればと思っています。

諸活動を通じて子どもたちや、その保護者の方々と触れ合うことにより、青少年健全育成の一助になればと思っています。今後も部員とより良い活動に行きたいと思っています。

## 成人学習部

成人学習部は、富士第一地区生涯学習推進会の組織として部員一同が地区の皆さんともども生涯学習を実践していく事を念頭に活動しています。

成人学習部の推進員は、各地区から推薦された推進員から構成されており、さらにその中から正副部長を選出しています。

成人学習部の主な活動は文化祭を主管し、かじま祭り実施についてのサポートです。

文化祭・かじま祭りは、富士市交流プラザ2階での舞台発表（多目的ホール）及び作品展示、平垣駐車場を中心としたバザー、交流プラザ前芝生広場での子ども相撲（かじま祭り）を毎年10月第4週の土・日開催で行っております。

最近、台風などの影響により準備していた文化祭・かじま祭りの開催が中止となるケースが増えてきています。また、昨今異常気象により猛暑・水害と各地区での影響も多く発生しておりますので、開催に影響がでる事を念頭において対策を考えていく必要があると考えています。

また、文化祭以外の活動についても他地区の活動を参考にさせていただき検討していきたいと思っています。

## 体育保健部

体育保健部は、体育祭等の行事を通じて富士第一地区の住民間の交流・親睦を深め、健全な地域社会を目指して活動しています。

体育祭は平成30年度に第49回を数える歴史ある行事となりました。親子何世代にもわたり活躍してきた住民の方たちも数多くいます。

富士第一地区においても少子高齢化の状況は著しく、町内会によっては子どもが数人で高齢者が数十人というところもあります。そういった状況の中で、従前の市民体育祭の競技種目を漫然と進めては、年々参加町内が減少し、生涯学習推進会の本来の目的にもかかわる問題になると考え、数年前から「競技会」から「レクリエーション大会」といった方向性を検討することとしました。一時期は参加町内会が7町内まで落ち込んだ体育祭も、昨年は15町内まで盛り返すことが出来ました。ただし、町内会によって50人超の参加者のところがあれば、3人1組での参加の町内会もありました。

私たち体育保健部は、全26町内会が人数に関係なく参加できる環境を作り出し、活気ある富士第一地区を目指したいと考えております。

## 生活安全部

生活安全部は、富士駅北地区の26町内からの各1名の推進員で構成されています。

主な活動は、年4回ある交通安全運動期間中の街頭指導のほか、駅北地区の祭典「かじま祭り」「体育祭」の開催時の駐車場・駐輪場整理及び、周辺警備や参加者の安全を見守っています。更には、富士山女子駅伝への協力も行っています。

生活安全部会としての活動は以上ですが、各町内の推進員さんには、自分たちが住む地域の生活向上と日常生活の安全の良き見守り隊になっていただきたいと思っています。例えば、近所の子もたちやお年寄りの見守り、周辺の街灯は切れていないか、不審者がうろついていないか等々、推進員さんと地域住民で気付いた事をその区長さんに報連相（報告・連絡・相談）する事が大切だと思います。昨今では、地域での生活安全が時として脅かされております。そのような環境を作り出さない為にも、地域住民一人ひとりの安全意識の向上が不可欠です。

限られた期間での推進員ですが、安全で生活しやすい地域づくりの一端となればと、微力ながら頑張っています。